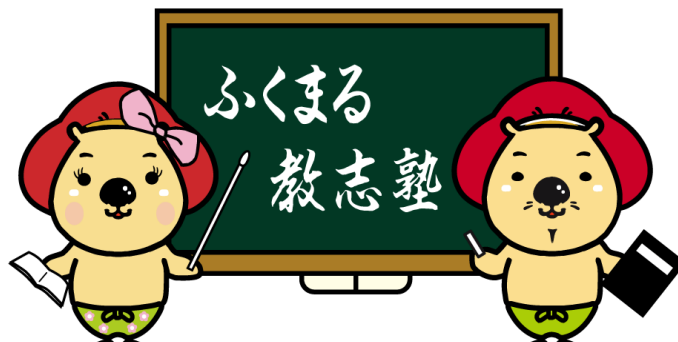


第6回 ふくまる夢たまごセミナー



日 時 10月27日(金) 18:00~20:00

場 所 池田府市合同庁舎 7階大会議室

内 容 おもしろ授業実践 PARTI
～国語科の授業づくりを通して～

講師 河合 啓志 氏 (池田市立石橋小学校 教頭)



参加の塾生は、16名、7階大会議室で授業が始まりました。

石橋小学校の河合教頭先生をお招きし、「おもしろ授業実践 PARTI～国語科の授業づくりを通して～」をテーマに先生がこれまで積み重ねてこられた授業づくりや学級づくりについてお話していただきました。

セミナーは「対話」という言葉の意味について考えるところから始まります。教育の世界ではこの「対話」が重んじられ、学習活動の中で多く取り入れられています。この「対話」が成立するためには、どのような条件が必要なのかという問いを先生が塾生に投げかけ、塾生はペアで話し合いました。

「対話」とは、共通の話題に対してどれだけ熱量を持つことができるかが重要であり、それぞれの教科の授業をする上で、指導する教師が、子どもたちが興味をもてる教材を研究し、授業することが必要だと教えていただきました。

また、「告白」という切り口から説明文の構成についてのお話もしていた

できました。子どもたちが説明文の学習の中で学ぶ、頭括型・尾括型・総括型について、先生が用意された文章を音読して考え合いました。

教育とは、「長所をのばすもの」なのか、「短所をうめるもの」なのかを考えた際には、河合先生が学級づくりの中で子どもたちとどのように関わり、一人ひとりをどのように見取っていたかを教えていただきました。

塾生のほとんどは、「長所をのばすもの」という意見でしたが、実際に教師として授業を進め、学級を作っていく中で、わかっていてもこれができなくなってしまう現象に陥りがちだと先生は話されました。



教師はクラスの子どもたち一人ひとりの良さ「スター性」を見つけ、全員の存在する価値を考えることができるかが大切であり、その良さ「スター性」を見つけるためには、学習や生活の場面で子どもたちが輝きを見出せる場の設定と、それを見つける教師の目が大切だと教えていただきました。

塾生同士の「対話」を大切に進められた講演を通して、塾生も自然とペアでの対話が深まり、授業づくりや学級づくりについて考える機会になりました。

<塾生の感想から>

- クラスにいる子どもたちのスター性を見つけて、輝ける場を設けることは、子どもたちの人生において大きな経験になるということを知りました。
- セミナーを通して、教師になっても常に学び続ける姿勢と学び続ける姿を自分自身で決めて追いつけていくことの大切さに気付きました。
- 子どもたちの才能を見出して、輝ける場所を与えられるような先生になりたいと思いました。そして、先生になる事がゴールではなく、先生になってからも学び続ける事を大切にしたいです。
- 子どもを成長させるために、何を伝えることが大切なのか考えることができました。